

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

茶園におけるカンザワハダニの防除の徹底について

茶園ではカンザワハダニの越冬数が多く多発生が続いており、今後、新芽の生育が抑制され、茶の品質低下や収量減少につながる恐れがあります。

つきましては、下記事項を参考に生産者への防除指導を徹底してください。

記

1) 発生状況

- (1)5月下旬の巡回調査では、カンザワハダニの寄生葉率は11.3%(平年4.5%、前年2.6%)であり、平年及び前年より多い(図1)。
- (2)気象予報(3ヶ月予報:5月25日発表)では、6月の気温は平年よりやや高く、降水量は平年よりやや少ないと予想されており、本種の増殖に好適な条件と考えられる。

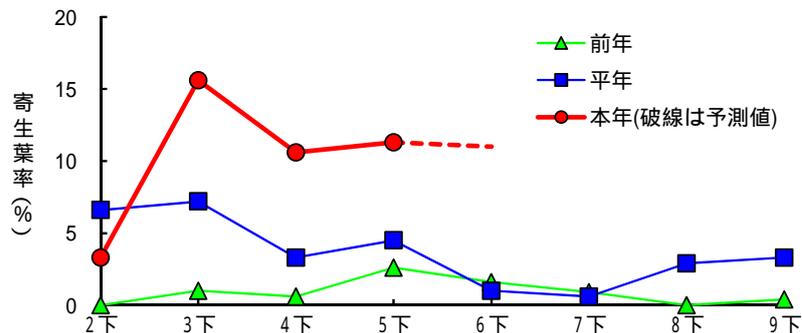


図1 茶の巡回調査におけるカンザワハダニ寄生葉率の推移

2) 防除対策

- (1)二番茶摘採(収穫)に向けた茶園観察を行い、本種の発生状況を確認する。
- (2)薬剤がかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、葉裏にも薬液がかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (3)表1を参考に各薬剤の使用時期(摘採前日数)に注意して薬剤防除を行う。
- (4)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。

表1 茶 カンザワハダニの薬剤防除例(摘採7日前までに使用可能な薬剤を掲載)

農薬名	希釈倍数	散布量	摘採前日数
スターマイトフロアブル	2,000倍	200~400L/10a	7
ダニサラバフロアブル	1,000~2,000倍	200~400L/10a	7
コテツフロアブル	2,000倍	200~400L/10a	7